

茨城県ひたちなか市立佐野小学校（学校長 寺門 常康）

実施日	平成19年10月10日（水）	時 間	午前9時30分～午前11時30分
実施場所	体育館	対象/人数	5年生 191名
担当教諭	増子 弘之	ファシリテーター	村尾 光子
講師	オレリアン・バロン（フランス・県国際交流員） ジョナサン・マイケルズ（アメリカ・県国際交流員） アンバー・チャン（オーストラリア・県国際交流員） 江 婷（中国・留学生） チュン・ゴク・クン・アン（ベトナム・留学生）		

活動内容

・それぞれの国の文化と特徴の話を聞く（米料理の試食を含む）

児童の感想

・ワールドキャラバンがありました。三カ国をまわってどれも楽しかったけれど、一番楽しかった国は中国でした。中国では、北京オリンピックの話・有名な動物の話・八宝粥の話でした。一番心に残ったのは、八宝粥という食べ物の話でした。このお話は、親孝行な子どもが母親のために八種類の具の入ったおかゆを作ってあげたという話で、「ちょっとロマンチックだな。」と思いました。それにとってもおいしかったです。私は、今度こんな楽しいことがあったら学校以外でも自分から進んで参加しようと思いました。（A）

・三カ国の中で一番心に残ったのは、フランスでした。文化が違い、主食がパンだということが分かりました。クロワッサンの名前の由来は三日月ということも分かりました。この勉強で、三カ国のことがいろいろ分かったし、違いも分かったのでとても楽しかったです。これからはいろいろな国の事を知り、いろいろな国の人たちと仲良くしていきたいと思いました。（B）

先生の感想

・「ザ食」というテーマで本年度の5年生は総合的な学習の時間を進めています。そこで、外国の食を中心に話を聞きたいということで派遣を依頼したのですが、準備を進める段階で「食べる体験はできないか」ということで相談をしました。わがままなお願いであったが、ご理解・ご協力いただき外国の料理の試食することができました。外国の人と話ができるというだけでも子どもたちには十分魅力的な活動であるのに、さらに試食という体験も加わったことによりとても楽しい時間となり、目を輝かせながら活動していました。また、5人の講師の方すべて子どもを引き付ける資

料の準備と工夫された話し方でとても分かりやすい内容でした。その結果、それぞれの国の様子や食文化・日本との違いなど、多くのことを子どもたちと驚きと共に発見することができました。

成果と課題

・国際理解教育において一番不安になるのが言葉であるが、派遣していただいた講師の方は、全員日本語が堪能な方であったので児童は内容をよく理解することができた。

・また、各国の食文化（米を含む）の話において試食を用意したことにより、2時間という長い時間にも関わらず意欲的に取り組むことができた。

・当初5カ国全部を体験するという考えもあったが、3カ国にしぼって行ったことにより、話をじっくりと聞いたことはもちろん、「あその国はどうだったの？」など活動後も意欲的に情報交換する姿が見られた。

・最初の依頼内容と少し違ってしまい講師・ファシリテーターの方にも迷惑をかけてしまったので、来年度以降の計画に役立てていきたい。

・総合的な学習の時間との関連を図りながら学習をしたので、この貴重な体験を今後の活動に十分に生かしていきたい。

